

2005年8月30日

北陸研究センター
所長 片山 秀策 殿

新潟県の米と自然を守る連絡会

共同代表 鶴巻 義夫
金子 真由
峯村 正文
山岸 勝
渋谷 昭彦

疎甲第

104号証

甲第

26

号証

情報開示を求める公開質問状

残暑厳しき折貴職益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

さて、北陸研究センター屋外実験即時中止を求めるGMイネ差し止め訴訟仮処分判決の決定がなされ、申立て却下が出されました。しかし、原告団の弁護団の主張も取り入れた判決であります。いまだ遺伝子組み換え作物に対し、消費者や生産者の根強い反対や拒否反応を示す人が多く、主食のコメであり消費者の抵抗感は一層強く、研究センターの対応が不十分であったと指摘し、GM技術が万全ではなく、予防原則からしても周辺農家や一般消費者に対して、これまで以上に問題点等について正確かつ分かり易い説明をすること。とりわけ本件GMイネに対する周辺農家の交雑の可能性、隔離圃場内におけるディフェンシン耐性菌発生状況等、情報公開し不安感や不信感を払拭する責任があると断言しています。

しかし、その事が守られておらず、下記の点について質問させていただきますので、ご多忙の折とは存じますが、9月7日まで文書にてご回答ください。

記

1. 再々にわたり申し込みをしても、テント内の実験に対して情報公開を要求しても、「私たちも入ることができない、お見せすることはできない」と、組み換えイネの交雑防止対策等が裁判所に提出された内容に沿って計画通りになっているのか？パラフィン紙でどのように覆われているのか？等々、一切の情報を公開せず拒否している事はなぜですか。
2. 裁判官が指摘された通り、ディフェンシン耐性菌の発生状況と伝播の有無等、原告山田ら周辺農家に対し、開発計画、遂行課程で得られた情報や実験結果等を積極的に開示すべきと厳しく指摘し、その事が行なわれなければ差し止めを求められてもやむを得ないと言っております。直ちに、ディフェンシン耐性菌の発生状況と伝播の有無について、実験遂行過程で得られたデータを明らかにして欲しいが、今日まで公開されておらず、お答えいただきたい。
3. 白葉枯れ病実験、イモチ病実験等々、終了している実験データを即時公開していた

だきたいと考えますが、いかがでしょうか。

4. 本テント内実験で組み換え稲の開花状況、水はりの状況等に関する写真やモニターを、即日公開して頂きたい。なぜなら、センターが申請していた開花時期と同時期に周辺農家の稲が開花しておりましたので、交雑可能性観点からしても県民に公開されるべきと思いますがいかがでしょうか。
5. 本実験で圃場に参加している人数、実験内容、テント入室出室の時間、衣類・タオル・手ぬぐい・長靴の処理状況等も公開されたいが、回答いただきたい。
6. 一回めの稲刈り後、二番稲が出ているが、刈り取りをいつするのかご回答願います。
7. トンボやクモ等が自由に出入りしていますが、圃場内管理はどのようにされているのかご回答ください。
8. 今夏大雨等がありましたが、圃場内外の排水状況、配水管位置図等公開されたい。
9. 4月29日の貴センター主催の説明会で、今までの屋内実験で、人工胃液、腸液でのタンパク質実験で安全性が証明されたと報告されていますが、そのデータを公開していただきたい。
10. 今までの屋内実験の中で発見された気づいた問題点についての資料があれば公開されたい。

以上

回答連絡先 新潟県の米と自然を守る連絡会
〒950-1125 新潟市流通1丁目-5-3 総合生協物流センター
TEL 025-260-3283 FAX 025-260-3265